



“夢”を追い求める企業

- 技術開発を挺にして時代とともに歩く企業を目指して

カクイ株式会社

代表取締役社長 岩元正孝

カクイ株式会社は、明治14年(1881年)原綿問屋として創業して以来、121年の間、一貫して「自然、環境、人間」を基本理念とし、地域社会との共存を図りつつ、天然繊維にこだわった、綿一筋の業務を続け、発展して参りました。

この間、明治31年には、島津藩磯紡績所から製綿機械一式を譲り受け、日本で初めての洋式機械による近代的な製綿技術を確認し、寝具用綿の高効率生産を開始しました。これによって、昭和33年には昭和天皇・皇后陛下の御臨幸を仰ぐことになりました。

さらに、昭和42年には、脱脂綿の連続精練漂白技術を開発し、「夢の連続精練漂白」として世界の注目を集めました。この方式及び機械設備は現在も製造の基幹をなし、わが国では唯一、原綿から脱脂綿製造まで僅か2時間弱の短時間で製品化出来るほか、独特の風合いを持つ脱脂綿製品として約50%の国内シェアを保っています。

また、平成2年には、通産省の助成を受け、国有特許を基にした天然繊維による油吸着材の製品化に成功しました。油吸着性能が高く、後処理経費の安いこと、環境負荷の小さいことが特長です。

次に、最近の新製品開発の状況に触れますと、寝具関係では、トルマリンから発生するマイナスイオンの健康増進効果に着目し、枕、マット等に

その機能を加えた製品が多数開発されています。その特長はマイナスイオンの発生密度が他に比べて格段に高いことにあります。

脱脂綿関係では、従来の化学薬品依存型の精練法に代わって、酵素を利用した生物資材依存型精練法を通産省の研究補助を受け、世界に先駆けて開発しました。この方式では、極めて優れた風合いの製品が得られるほか、環境負荷の少ない将来の精練法として注目されています。

次に、今後の新しい企業の方向を模索する製品として、炭化処理した脱脂綿の製品化に取り組んでいます。その一つが「液状炭化繊維」(リキッドカーボン)です。吹き付けあるいは塗布によって炭化繊維の層を形成し脱臭等の機能を保持することが出来ます。他は「電磁波吸収材」です。炭化した繊維集合体の電磁波減衰効果を利用したもので、今後の成果に期待が寄せられています。

これらの研究や新製品開発を進めるに当たって、技術内容に適應した助言や計測機器による分析は不可欠であります。先に述べた電磁波吸収材については、現在、「綿材を利用した電磁波吸収材の開発」として鹿児島県工業技術センターと共同研究を進めつつあり、これを含め、今後果たして頂きたい役割は極めて大きいと言わざるを得ません。今後とも切に御協力をお願い致します。



本社社屋



脱脂綿の連続精練漂白装置の一部